

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400034		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街家代 (1階)		
所在地	静岡県掛川市家代の里2丁目13番地の10		
自己評価作成日	令和3年8月9日	評価結果市町村受理日	令和3年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2297400034-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2297400034-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あいの街家代は、開設以来“いつも笑い声が絶えない、笑顔あふれる我が家でありたい”を理念として掲げ、10年運営を続けてきました。笑顔だけでなく、時にはお互いに怒ったり、泣いたり、愛を持ってご入居者様と接し、全力で向き合い、最後には、ご家族様に「あいの街家代でよかった。」と言っていただけ、思っていただけのような、暖かい家族の様なグループホームを目指して日々努力しております。コロナ禍においては活動や外出、面会に制限を設けざるを得ない状況であり、入居者様はストレスを感じる場面も多ありますが、少しでも楽しみのある生活を送っていただけるよう職員が毎月イベントを企画、開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の他に主任職が3名、更に看護師1名と潤沢な管理層を擁して、安定感が満ちる事業所です。職員も真面目で誠実な性向の人が多く、「これをやろう」ということには総意で向き合い、本部への提出物の期限を遵守する等組織人としての使命にも忠実です。一方、接遇品質は課題としてあがっていて、学習意欲の高さを基盤に「こうしていこうよ」と取組姿勢を一つにしています。利用者にだけというのではなく職員間にも温かな関わり合いがあり、若い男性管理者が「これからのびしろもまだまだ感じる」として、「笑顔溢れる我が家」への期待が膨らんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつでも笑い声が絶えない笑顔あふれる我が家でありたい」という理念を掲げており、入居者様には、施設を我が家のように思い安心して過ごしていただけるよう、職員は日々支援にあたっている。	職員は「いつでも笑い声が絶えない～」との理念を体現できていますが、頭からの理解というよりも「お嫁さんとして」「娘として」といった気持ちから関わる人が多いため、距離感を保つことは課題として、管理側では打開策を検討中です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染拡大により地域の防災訓練の規模が縮小されたり、運営推進会議が施設内開催となったりしたことで地域の方々との交流の機会は減少している。	コロナ禍前には防災訓練にも積極的に参加し、近隣から野菜が届くこともありましたが、現在は交流が中断しています。それでも、エレクトーン演奏に来訪くださっていたボランティアとは道すがら出会えたときは立ち話をする位の関わりは続いています。	「子ども110番」としての登録活動はありますが、今後は「介護相談を受ける」こともPRしていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は主に運営推進会議を通して民生委員や区長他に施設の状況や職員研修の実践報告を行っていたが、今後は回覧等を通じて報告することはできないか検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止策として家族、外部の方の施設内への立ち入りを制限しており、運営推進会議も施設内開催となっており、資料を民生委員や区長に手渡した時に意見をうかがうのみとなっている。	職員間で2ヶ月の活動内容を書面にまとめ、区長・民生委員・市役所・地域包括支援センターに手渡しで届ける「書面開催」としており、コロナ禍となってからはメンバーは集まっていません。書面の内容は、状況が手にとるように綿密に綴られています。	手渡しのため立ち話での情報交換はできていますが、返信シートを同封して意見がもらえるようにすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を手渡しする際意見を聞いたり、6月に実地指導が入った際に口頭指導していただいた項目について随時報告改善報告をしている。	ワクチン接種では「職員も一緒に～」との、掛川市の英断に助けられています。実地指導も本年6月にあり、「全体では配置基準を満たしてはいるも、ユニット毎でみたときの配慮が必要」との指摘事項は、速やかに改善しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回程度身体拘束に関する研修を行っている他、身体拘束適正化のための対策を検討する委員会を施設職員で実施(訪問診療時には主治医にも相談)し、その議事録を職員間で回覧するようにしている。	現状フィジカル・ドラッグにおける課題はないため、テーマはエスケープとスピーチロックに絞られています。身体拘束廃止委員会は話し合いの、格好の機会となっていて、カンファレンスとは別の場ができたことを職員も歓迎しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティング内で高齢者虐待に関する研修を実施している他、入居者様に対して拘束や行動制限をしない方法、考え方を検討する場をも受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護については職員ミーティング内で研修を実施し、家族や親族から相談があった場合には対応できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定についてはご家族に連絡、説明し了承を得ている。入居の契約時にもアセスメント、聞き取りを行い不安や疑問があればその点の施設の対応について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や看護師からご家族に様子の変化を報告し、意見交換ができる状況作りをしている。そこでいただいたご意見は職員ミーティングで周知するようにしている。入居者様は気持ちの表出ができるよう職員には傾聴支援の研修も実施している。	毎月の明細とともにイベントの写真を同封して家族に郵送しています。概ね月1回程度家族とは電話で話をするように心がけ、頻度をあげていくよう管理者は努めています。また家族の状況を鑑みて、職場携帯からメールすることもあります。	個別のお便りが現在ありません。コロナ禍となり面会が思うようにならない家族の不安を気遣い、発行くださることを期待します。また各フロアにアイパットが設置されていますので、玄関先で動画披露もあるとよいかと思えます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度実施している職員ミーティングで意見を聞いている他、定期的に管理者と職員が面談する機会を設けている。	本部から通達があり、研修と会議は中止となっていて、研修は本社から届く資料を職員に配付することで代替としています。少人数での職員ミーティングは継続され、主任からあがった内容は管理者経由でボードに掲示したり、回覧しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり職員個々の評価が行われている他、資格取得のための講習や研修についても都度提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として資格取得のための研修制度があり、その研修への参加は出勤扱いになる物もある等職員が参加しやすい体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で法人内の同一サービスの職員同士が相談し合える機会を設けている他、市の同業者同士のネットワークがあり交流する機会がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族に聞き取りを行い本人や家族の不安、困りごとを職員にも事前に伝えることで環境を整備して統一されたサービスが提供され、不安が少しでも解消されるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活の様子を家族に聞き、入居後の生活に期待すること、本人の望む生活をケアプランに組み込むようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を確認し、施設入居以外の支援の形もあるか検討している。他のサービスにも繋げられる可能性があれば本人、家族にも説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯物たたみ、草とり等その方に合った作業を依頼しており、役割を持って生活していただくこと、尊厳の保持の視点を含めて支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族に希望があれば自宅で過ごしたり一緒に外出したりする機会を提供している。現在は面会制限中であるが、本人の望む物があれば家族に依頼し持ってきていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会や外出に制限があるが、自宅に帰り近隣の方に会いたいという本人の希望のために外出の機会を設けたり、逆に近所の方が面会にみえたりと関係継続のための支援を施設としても行っている。	玄関ホールがやや広めなことを活かして、距離を置いた短時間の面会を可能としています。以前は入浴や散歩に家族が関わっていただきましたが、現在は「気をつけてもらって」なんとかなじみの美容院に通う人のみとなりました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状の程度や入居者様同士気の合う、合わない等日頃の様子から配慮し、席の配置を変更している。また、居室にこもらないよう日中も声掛けをし、フロアで他者と関わる機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居やサービス変更の場合は今後もいつでも相談にのれることを家族に伝えている他、看取りをした方については家族の精神的なケアも行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設での過ごし方の希望や自宅で過ごすことへの思いを本人から聞き取り、家族とも相談している。思いを言葉にできない方はできる限り意向をくみ取るよう努めている。	「土いじりが好きな人たちには草取りやプランターの植栽」といった、その人の好みのもので軽作業できるよう支援しています。介護支援専門員は傾聴に入る時間がとれることから、隣に座っておしゃべりすることで思いを確認できることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や居宅のケアマネ、相談員に聞き取りを行い、入居後もできる限り馴染みの生活に近づけられるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	クラウド型の電子入力ソフトに記録することで、1日の過ごし方や心身の状態変化を把握しやすくしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方については職員からの意見を参考にし、本人や家族との話をプランに反映させるようにしている。心身の状態の変化については看護師から主治医に相談し助言を得ている。	担当者欄には「地域住民」と職員以外が入り、意向欄には利用者本人の発語がそのまま掲載され、サービス内容には情緒面も上げられていて、総じてパーソン・センタード・ケアを体現する介護計画書と成っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきや工夫については職員が記録し、日々の申し送りやミーティング内で共有、ケースカンファレンスを行っている。支援方法に変更が必要であればプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては家族の協力や施設対応で応えられるのか都度検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加して下さっている区長より地域資源や非常時の協力体制について聞くことができる。施設や入居者が地域の中で心身の力を発揮し、豊かに暮らしていくことについては検討課題となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には施設の提携医がいることを伝え、主治医を切り替えるかは本人、家族に任せている。現在入居されている方すべてがかかりつけ医に変更しており、職員から看護師への申し送りを受けて看護師から医師に相談することで細やかな支援が受けられている。	月2回、協力医の訪問診療を全員が受けており、歯科などの専門医への通院は家族に付き添いをお願いしています。診療には事業所の常勤看護師も立ち会い、24時間365日、何時に電話しても駆けつけてくださる赤ひげ先生との連携で安心の医療体制にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の変化や気づきを看護師に報告し、看護師からかかりつけ医に相談することで細やかな支援が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を病院側に提供し、入院中も入居者様の状態を病院側に聞くことで退院後の受け入れがスムーズにできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には緊急時の対応等について話し、状態に変化があった場合には今後の支援の方向性や看取りについて家族の意向を確認する中で施設として対応できること、難しいことを伝えている。その中で希望があれば他機関へ繋げ、看取り希望の方については穏やかに週末を迎えられるようかかりつけ医と連携を取るようになっている。	職員の定着率が良いことで経験値とチームワークが高く、また常に親身な協力医の存在が鬼に金棒となり、看取りは安心の体制で取り組むことができます。コロナ禍で現在は事業所が間に入っていますが、これまでは医師が直接家族に終末期への対応を説明くださっていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は研修を行っている他、例年は防災訓練実施時に消防署の職員から心肺蘇生やAEDの使用法の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、その時の入居者様の状態に応じた避難方法を随時検討している。備蓄の確認や停電を想定した調理、食事、夜間想定避難訓練も実施している。	バリアフリーとなっている地域の公民館を「何かあれば使って～」と区長からは温かい言葉をもらえています。防災訓練の報告書には「どのようなねらいをもって取り組んだのか」や、「訓練を経て掴んだこと」「今後の課題」と丁寧な記載があり、事業所の生真面目さが伝わります。	感染症と防災についてはBCPに及んで検討を重ねていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「我が家のように過ごしてほしい」との思いや入居者様を思う気持ちから職員と入居者様の距離が近くなりがちである。接遇マナーやプライバシー保護についての研修の実施や呼称についてもミーティングで定期的話し合っている。	理念に沿ったケアサービスを実現させている一方で、「笑顔溢れる我が家」だからこそ、ややお嫁さんの言動になってしまうことも見られます。特に、多動には他の利用者への配慮も相まって「待つ」などと制限してしまうことから、カンファレンスで気づきを求めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の些細なことでも自身で決めていただくことを職員は意識している。決定が難しい方でも、その方に合った聞き方で、できる限り意思表示ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	衛生管理の面から食事の時間にはある程度決まりはあるが、1日の中で決まったスケジュールはなく、体操やレクリエーションについても参加の意思を確認するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自宅で着ていた物をそのまま持ち込んでいただいております、その日に着る服や整容についても本人に確認するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みの食事を湯煎で温めて提供している。イベント時には職員が食事を手作りし、入居者様の好みや反映されるようにしている。	レトルト状態のものが業者納入され、刻みが必要であれば職員が対応しています。クリスマスには市販のチキンを購入したり、クリームやフルーツをデコレーションして盛り上がる誕生会もあります。業者からも正月にはおせち料理、土用の丑には鰻の蒲焼きが届いています。	里芋など職員が常時手を加えないと大きかったり、固いものは業者に速やかに申告するとともに、給食会議があることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量は記録をすることで摂取量を把握し、必要量が確保できるようにしている。本人が食べやすい食事形態にしたり補食を用意したりすることで食事量も確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、歯ブラシ、舌ブラシ、スポンジ等その方に合った物を使用するようにしている。義歯が合っているか、残存歯の状態等の把握も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他、立位保持が難しい方であっても二人介助で対応し、できる限りトイレで排泄していただくようになっている。排泄のペースを掴んだりサインを察知したりすることで自立に向けた支援を行うようになっている。	失禁がない人は2名のみです。排泄チェック表をつけてもリズムが体調的につかめず、「間に合わない」「量が多い(溢れる)」「座面に座りきれないうちに…」といった症状のほか放尿もあり、職員は排泄対応でめまぐるしい状況にあります。	(多人数は大変な為)1名のみピックアップ、センター方式などに照らして職員全員でその人を観察、探求してみることも一考ください。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の調整だけに頼らず、水分の摂取量を把握し、飲水量の少ない方には声掛けをしている他、寒天を接種していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴を目安としているが、午前午後の時間は選んでいただいている。1日に入浴していただく方は午前、午後合わせて3人程度とし、時間に余裕を持って入浴していただくようになっている。	拒否の症状には家族に付き添ってもらう工夫も以前にはおこなえていました。普段以上にお喋りとなる様子に職員も嬉しくなれるのが入浴支援で、特に昔話や職員へのねぎらいには饒舌になる利用者が少なくありません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の意思で自由に臥床できるようにしており、就寝の時間も本人のこれまでの生活習慣に合わせている。居室の温度管理や寝具も気候に合わせて調整し、環境を整えるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった時には必ず申し送りがされている。作用、副作用については申し送りの他、職員は薬情を見て内容を確認できるようにしている。薬が変更になった後は注意深く観察し変化があれば看護師に伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前のアセスメントの他、日頃の会話の中から入居者様の好きなことを把握し、楽しみのある生活、生活意欲の向上を目指して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族対応での外出の他、施設対応でのドライブも実施している。	曇っている日や夕方の過ごしやすい時間帯を選んで散歩に出かけていますが、桜の花見やかっぱ寿司などに出かけた日は遠く、日常的な外出は叶っていません。突然「歩きたい」と発する人もいて、職員は駐車場をグルッと廻って気分を高めています。	旅情を味わえるDVDやお取り寄せグルメ、テイクアウトなど、外出・外食に近い状況をつくっていくことを期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族管理の方がほとんどであるが、財布やお金を所持していることで安心する方もあるため、管理できる方に関しては家族了承のもと所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人持ちの携帯電話で家族や友人とやりとりしている方がいる。希望があれば施設の電話を使用し、家族当と連絡が取れるようにしている。施設に手紙が届くこともあり、ご家族了承のもと親族や友人と手紙のやり取りをする方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには植物を置き、季節に合わせた製作物を飾ったりもしている。室温も都度入居者様に聞きながら調整している。	食事やレクリエーション等作業の前後にはテーブルを拭き、ドアノブをはじめとするコンタクトポイントはこまめに、コロナ禍となり消毒頻度を高めるとともに、網戸と排煙口を駆使して24時間換気としています。他にも空気清浄器は5台目が追加されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階には座敷、2階にはベンチが設置しており、フロアにいても他入居者と離れて過ごすこともできる。食事の時の席はある程度決まってはいるが、席の移動は制限していない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込むことができるため、使い慣れた物をそのまま使用することもできる。	仏壇を持ち込んでいる人は毎日手を合わせるのが日課で、お供えするお水も自身で交換しています。必要に応じて職員が扉を閉めようとする、「主人がいるからそのままに」と遮られることもあり、そんなときはご主人が居る(?)らしき方向に向かい挨拶するようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	主に居室では、入居者様の危険予知能力に応じて置ける家具や物品を検討している。自己管理ができる方のところには冷蔵庫も設置している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400034		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街家代 (2階)		
所在地	静岡県掛川市家代の里2丁目13番地の10		
自己評価作成日	令和3年8月9日	評価結果市町村受理日	令和3年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2297400034-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2297400034-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あいの街家代は、開設以来“いつも笑い声が絶えない、笑顔あふれる我が家でありたい”を理念として掲げ、10年運営を続けてきました。笑顔だけでなく、時にはお互いに怒ったり、泣いたり、愛を持ってご入居者様と接し、全力で向き合い、最後には、ご家族様に「あいの街家代でよかった。」と言っていただけ、思っていただけのような、暖かい家族の様なグループホームを目指して日々努力しております。コロナ禍においては活動や外出、面会に制限を設けざるを得ない状況であり、入居者様はストレスを感じる場面も多ありますが、少しでも楽しみのある生活を送っていただけるよう職員が毎月イベントを企画、開催しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の他に主任職が3名、更に看護師1名と潤沢な管理層を擁して、安定感が満ちる事業所です。職員も真面目で誠実な性向の人が多く、「これをやろう」ということには総意で向き合い、本部への提出物の期限を遵守する等組織人としての使命にも忠実です。一方、接遇品質は課題としてあがっていて、学習意欲の高さを基盤に「こうしていこうよ」と取組姿勢を一つにしています。利用者にだけというのではなく職員間にも温かな関わり合いがあり、若い男性管理者が「これからのびしろもまだまだ感じる」として、「笑顔溢れる我が家」への期待が膨らんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつでも笑い声が絶えない笑顔あふれる我が家でありたい」という理念を掲げており、入居者様には、施設を我が家のように思い安心して過ごしていただけるよう、職員は日々支援にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染拡大により地域の防災訓練の規模が縮小されたり、運営推進会議が施設内開催となったりしたことで地域の方々との交流の機会は減少している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は主に運営推進会議を通して民生委員や区長他に施設の状況や職員研修の実践報告を行っていたが、今後は回覧等を通じて報告することはできないか検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大防止策として家族、外部の方の施設内への立ち入りを制限しており、運営推進会議も施設内開催となっており、資料を民生委員や区長に手渡した時に意見をうかがうのみとなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料を手渡しする際意見を聞いたり、6月に実地指導が入った際に口頭指導していただいた項目について随時改善報告をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回程度身体拘束に関する研修を行っている他、身体拘束適正化のための対策を検討する委員会を施設職員で実施(訪問診療時には主治医にも相談)し、その議事録を職員間で回覧するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティング内で高齢者虐待に関する研修を実施している他、入居者様に対して拘束や行動制限をしない方法、考え方を検討する場をも受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護については職員ミーティング内で研修を実施し、家族や親族から相談があった場合には対応できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定についてはご家族に連絡、説明し了承を得ている。入居の契約時にもアセスメント、聞き取りを行い不安や疑問があればその点の施設の対応について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や看護師からご家族に様子の変化を報告し、意見交換ができる状況作りをしている。そこでいただいたご意見は職員ミーティングで周知するようにしている。入居者様は気持ちの表出ができるよう職員には傾聴支援の研修も実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度実施している職員ミーティングで意見を聞いている他、定期的に管理者と職員が面談する機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり職員個々の評価が行われている他、資格取得のための講習や研修についても都度提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として資格取得のための研修制度があり、その研修への参加は出勤扱いになる物もある等職員が参加しやすい体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で法人内の同一サービスの職員同士が相談し合える機会を設けている他、市の同業者同士のネットワークがあり交流する機会がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族に聞き取りを行い本人や家族の不安、困りごとを職員にも事前に伝えることで環境を整備して統一されたサービスが提供され、不安が少しでも解消されるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活の様子を家族に聞き、入居後の生活に期待すること、本人の望む生活をケアプランに組み込むようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を確認し、施設入居以外の支援の形もあるか検討している。他のサービスにも繋げられる可能性があれば本人、家族にも説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯物たたみ、草とり等その方に合った作業を依頼しており、役割を持って生活していただくこと、尊厳の保持の視点を含めて支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族に希望があれば自宅で過ごしたり一緒に外出したりする機会を提供している。現在は面会制限中であるが、本人の望む物があれば家族に依頼し持ってきていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会や外出に制限があるが、自宅に帰り近隣の方に会いたいという本人の希望のために外出の機会を設けたり、逆に近所の方が面会にみえたりと関係継続のための支援を施設としても行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状の程度や入居者様同士気の合う、合わない等日頃の様子から配慮し、席の配置を変更している。また、居室にこもらないよう日中も声掛けをし、フロアで他者と関わる機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居やサービス変更の場合は今後もいつでも相談にのれることを家族に伝えている他、看取りをした方については家族の精神的なケアも行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設での過ごし方の希望や自宅で過ごすことへの思いを本人から聞き取り、家族とも相談している。思いを言葉にできない方はできる限り意向をくみ取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や居宅のケアマネ、相談員に聞き取りを行い、入居後もできる限り馴染みの生活に近づけられるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	クラウド型の電子入力ソフトに記録することで、1日の過ごし方や心身の状態変化を把握しやすくしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方については職員からの意見を参考にし、本人や家族との話をプランに反映させるようにしている。心身の状態の変化については看護師から主治医に相談し助言を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきや工夫については職員が記録し、日々の申し送りやミーティング内で共有、ケースカンファレンスを行っている。支援方法に変更が必要であればプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては家族の協力や施設対応で応えられるのか都度検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加して下さっている区長より地域資源や非常時の協力体制について聞くことができています。施設や入居者が地域の中で心身の力を発揮し、豊かに暮らしていくことについては検討課題となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には施設の提携医がいることを伝え、主治医を切り替えるかは本人、家族に任せられている。現在入居されている方すべてがかかりつけ医に変更しており、職員から看護師への申し送りを受けて看護師から医師に相談することで細やかな支援が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の変化や気づきを看護師に報告し、看護師からかかりつけ医に相談することで細やかな支援が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を病院側に提供し、入院中も入居者様の状態を病院側に聞くことで退院後の受け入れがスムーズにできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には緊急時の対応等について話し、状態に変化があった場合には今後の支援の方向性や看取りについて家族の意向を確認する中で施設として対応できること、難しいことを伝えている。その中で希望があれば他機関へ繋げ、看取り希望の方については穏やかに週末を迎えられるようかかりつけ医と連携を取るようになっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は研修を行っている他、例年は防災訓練実施時に消防署の職員から心肺蘇生やAEDの使用法の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、その時の入居者様の状態に応じた避難方法を随時検討している。備蓄の確認や停電を想定した調理、食事、夜間想定避難訓練も実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「我が家のように過ごしてほしい」との思いや入居者様を思う気持ちから職員と入居者様の距離が近くなりがちである。接遇マナーやプライバシー保護についての研修の実施や呼称についてもミーティングで定期的に話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の些細なことでも自身で決めていただくことを職員は意識している。決定が難しい方でも、その方に合った聞き方で、できる限り意思表示ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	衛生管理の面から食事の時間にはある程度決まりはあるが、1日の中で決まったスケジュールはなく、体操やレクリエーションについても参加の意思を確認するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自宅で着ていた物をそのまま持ち込んでいただき、その日に着る服や整容についても本人に確認をするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みの食事を湯煎で温めて提供している。イベント時には職員が食事を手作りし、入居者様の好みも反映されるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量は記録をすることで摂取量を把握し、必要量が確保できるようにしている。本人が食べやすい食事形態にしたり補食を用意したりすることで食事量も確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており、歯ブラシ、舌ブラシ、スポンジ等その方に合った物を使用するようにしている。義歯が合っているか、残存歯の状態等の把握も行っている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他、立位保持が難しい方であっても二人介助で対応し、できる限りトイレで排泄していただくようにしている。排泄のペースを掴んだりサインを察知したりすることで自立に向けた支援を行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の調整だけに頼らず、水分の摂取量を把握し、飲水量の少ない方には声掛けをしている他、寒天を接種していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴を目安としているが、午前午後の時間は選んでいただいている。1日に入浴していただく方は午前、午後合わせて3人程度とし、時間に余裕を持って入浴していただくようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の意思で自由に臥床できるようにしており、就寝の時間も本人のこれまでの生活習慣に合わせている。居室の温度管理や寝具も気候に合わせて調整し、環境を整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった時には必ず申し送りがされている。作用、副作用については申し送りの他、職員は薬情を見て内容を確認できるようにしている。薬が変更になった後は注意深く観察し変化があれば看護師に伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前のアセスメントの他、日頃の会話の中から入居者様の好きなことを把握し、楽しみのある生活、生活意欲の向上を目指して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族対応での外出の他、施設対応でのドライブも実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族管理の方がほとんどであるが、財布やお金を所持していることで安心する方もあるため、管理できる方に関しては家族了承のもと所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人持ちの携帯電話で家族や友人とやりとりしている方がいる。希望があれば施設の電話を使用し、家族当と連絡が取れるようにしている。施設に手紙が届くこともあり、ご家族了承のもと親族や友人と手紙のやり取りをする方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには植物を置き、季節に合わせた製作物を飾ったりもしている。室温も都度入居者様に聞きながら調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階には座敷、2階にはベンチが設置しており、フロアにいても他入居者と離れて過ごすこともできる。食事の時の席はある程度決まってはいるが、席の移動は制限していない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込むことができるため、使い慣れた物をそのまま使用することもできる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	主に居室では、入居者様の危険予知能力に応じて置ける家具や物品を検討している。自己管理ができる方のところには冷蔵庫も設置している。		